

2015年2月

～藻谷浩介氏の講演を終えて～

下関市の高齢化率 31.8%、人口減少、空き家が多い。所得水準も全国水準を下回る。生活保護世帯数増加、貧困など地域衰退の要素ばかりが目につきます。このままでは未来の子供達に申し訳けない思いに駆られ、地域活性化の為に何かしなくてはいけない。その為に藻谷浩介氏から現状を聞き、下関のこれからの方向性を示唆して頂き、それを実践して行く事が今一番必要な事ではないかと思いました。

1月31日、下関での講演が朝・昼・晩と3回行うことになり、参加者が分散されることを危惧しましたが「3ヶ所で同じ話はしませんから。」と、藻谷浩介氏のことばでしたので安心していましたが、事前のアピールは川棚がすごかったです。こちらは有料でもあるし、参加者が少ないのではないかと内心不安でした。参加者は今までになく男性が多く会場はある程度埋まりましたので安堵しました。「終のすみかの地、下関をどうしたいのか？未来の子供達のためにも」と題して講演して頂きました。以下、大まかな“まとめ”です。



○地域活性化って何ですか？

交通が便利になって、工場誘致が進んで、好景気になれば人口は減らなくなると、あなたは今なお本気で信じていますか？これ以上交通を便利にするよりも、これ以上工場を増やそうとするよりも、好景気・不景気と騒ぐのでもなく

◎人口が減らなくなること

◎若者が戻ってきて、子供が生まれ続けること

◎誇りを持って地域を残すこと

○日本の足を引っ張る限界とは？

国際競争で負けていること、経済成長率が低すぎる、デフレで物価や地価が上がらないことですか？

- ◎子供の減少で社会が縮んでいく
- ◎エネルギーの使い捨てに限界が来た
- ◎貯金が消費に回らず循環しない
- ◎土地建物が再利用されず空いていく

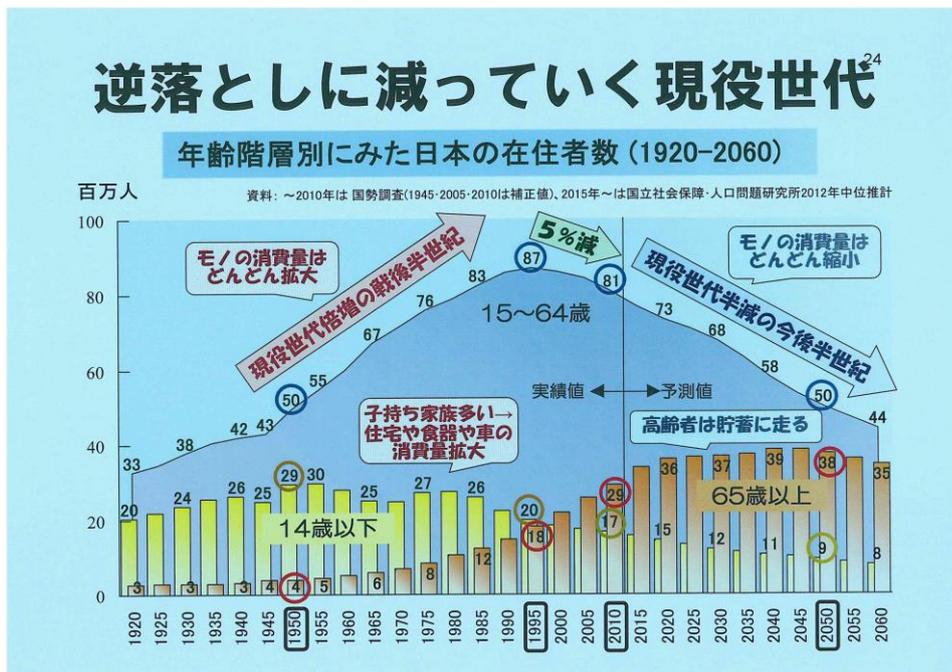
○下関市で今起きていること

(人口流入を見込んだ国立社会保障・人口問題研究所の予測)

市内在住者(外国人含む)：2010年→2020年△2.5万人

110年少々で人口がゼロ！というペースの深刻な減少

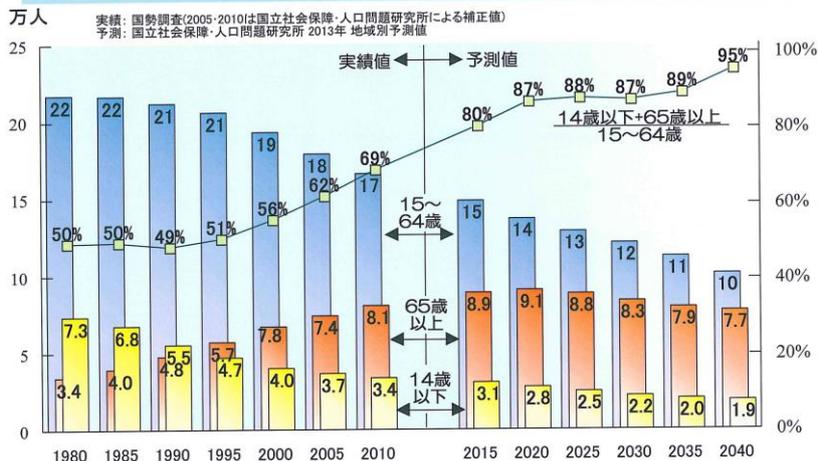
50年少々で現役世代がゼロ！というペースの逆落としのような減少



現役世代の減少が続く下関市

25

年齢階層別にみた下関市(現市域)の在住者数(1980-2040)



○止められないこと、できること

×止められないこと

- 今の住民が毎年1才ずつ歳を取っていくこと
- 多くの若者が地域外に就職して出て行くこと

△止められること

- 出生率の低下はやり方次第で止められる
- 当地で育ち就職時に出て行った若者が、出て行ったきりとなることも工夫次第で止められる。

○むしろ前向きにできること

- 子育てしながら働く若い世代を呼び込める
- 無病息災で天寿を全うする高齢者を増やせる
- 来訪・滞在・短期定住する外来者を増やせる



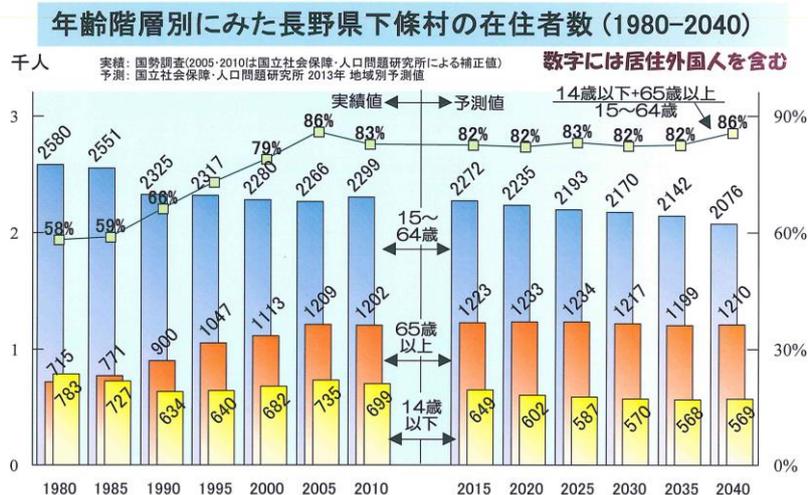
「里山資本主義」こそ、これらをすすめるためのカギとなる発想

「地域活性化とは、人が減らなくなること、誇りを持って地域を残すこと。」と言われました。下関の将来について「人口減少は続く一方で高齢者の増加は落ち着く。高齢者が増えないだけ実は希望がある。」

「東京・福岡のような都市は今後増えるのは医療や福祉が必要な高齢者である。」地域振興について県内では周防大島や阿武町を紹介され、安定を実現した長野県下條村など里山を生かした各地の取り組みを紹介されました。その上で「努力している地域に学びながら、若者が戻り、母親が安心して子供を産める社会づくりに力を注ぐべきです。」と言われました。「下関は過疎地です。現実を確認することが大切です。下関は胡坐をかいて若い人を受け入れてないのではないか？高齢者が子供達を増やす為の努力をしていないのではないか？子育てする環境にないのではないか？」など厳しい言葉を頂き、「目から鱗」でした。

安定を実現した長野県下條村

26





私たちホーモイが実践している「介護予防のためのサロン」の意義「健康寿命を延ばしましょう!」を改めて思い直しました。これから子育て支援のあり方を学習し、実践に結びつけて行きたいと思っています。市民も行政も努力して頂きたいと切に望みます。次回「里山資本主義」を詳しく学びたいと思います。

※印象に残った言葉⇒絶望とひがみが世の中をだめにする。